

講義録レポート

講義録コード

02-22-3-101-10

講座	公認会計士	科目①	入門Ⅰ
目標年	2022年合格目標	科目②	財務会計論
コース	入門・基礎期	回数	10 回
		通算回数	10 回
用途	ビデオブース ・ 集合DVD WEB通信 ・ DVD通信 ・ 資料通信 ・ DL通信		

収録日	2020年 4月 28日			
講師名	小野 友輔 講師	内 訳	板書枚数	3 枚 ※レポート 含まず
			補助資料枚数	1 枚
			その他	枚

講義構成	答練 120分 → 解説 40分		
実施テスト	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無		
対応テスト	<ミニテスト>	() 第	回
	<答練・演習>	(実力テスト) 第	1 回
使用教材			
配布教材	財務会計論 入門Ⅰ 実力テスト 問題	講義録添付 (有 <input checked="" type="radio"/> 無)	
	財務会計論 入門Ⅰ 実力テスト 解答	講義録添付 (有 <input checked="" type="radio"/> 無)	
		講義録添付 (有・無)	
備考			

この講義録の著作権は、TAC株式会社または権利者に帰属しており、当社に無断で複製、改変、転載、転用、インターネット上にアップロードする等の著作権を侵害する行為は法律によって禁止されています。

TAC公認会計士講座

～ memo ～

公認会計士	講義録	コース講義等	入門 I	科目	財務会計論(計算)	回数	10
-------	-----	--------	------	----	-----------	----	----

配布物	★テスト類： []	講師	小野 先生
	★その他の配布物1： []		
	★その他の配布物2： []		

黒 板 内 容

B-11

当		
500,000	220,—	
310,—	54,—	
77,—	110,—	消込分
130,—	230,—	△(1)
170,—	66,—	+(2)
153,—		

(M+) → ← (M-)

(MR) → 354,000

(仕) / 買

買 / 支手 ☆

支手 / 当

第5問

7.8 → 前TBが何ヶ月分か?

前TB $31,500 \div 21ヶ月 = @1,500$

↑

× 12ヶ月

公認会計士	講義録	コース講義等	入門 I	科目	財務会計論(計算)	回数	10
-------	-----	--------	------	----	-----------	----	----

配布物	★テスト類 : []	講師	小野 先生
	★その他の配布物1 : []		
	★その他の配布物2 : []		

黒板内容

前TB (14ヶ月)

前TB 42,000 ÷ 14ヶ月 = @ 3,000

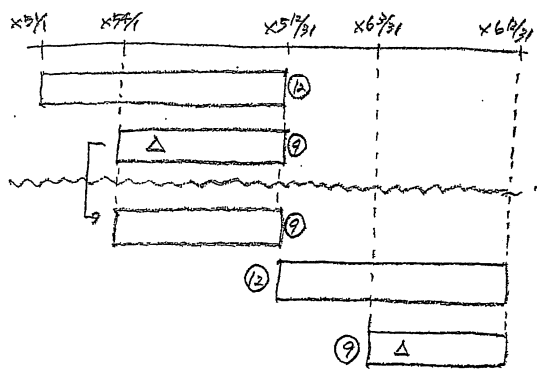
第3图

仁 590- / 当 220-
 当 310- / 支 180-
 当 210- / 支 190-
 当 440- / 支 900-
 当 770- / 支 500-
 当 570- / 支 500-
 当 1700- / 支 500-
 当 130- / 支 500-
 当 110- / 支 500-
 当 150- / 支 180-
 当 36- / 支 300-
 当 6- / 支 300-
 当 170- / 支 300-
 当 230- / 支 300-
 当 66- / 支 300-
 当 150- / 支 300-
 当 3- / 支 300-

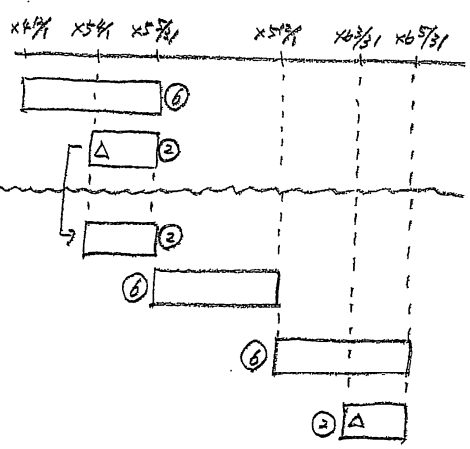
第5图

依斐 26- / 茶料 10-
 下 180- / 前斐 16-
 邦 51- / 依斐 50-
 邦 22500 / 茶 120-
 邦 151- / 茶 180-
 賈 29- / 公字
 週 880 / 公字
 2020 / 31
 51- / 24
 24 / 50
 2200 / 通
 3200 / 通
 前机 1- / 前机 12500
 賈 6- / 前机

保原料



家賃



財務会計論入門 I

実力テスト 問題

(第10回目実施)

[解答時間: 120分]

第1問 (20点)

下記の取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	受取手形	売掛金
仮払法人税等	前払金	仮払金	立替金
支払手形	買掛金	未払金	租税公課
前受金	仮受金	社会保険料預り金	所得税預り金
仕入	給料	消耗品費	通信費
法人税, 住民税及び事業税	雑費	未払法人税等	貯蔵品

1. 当月分の従業員給料総額 ¥ 7,200,000 から社会保険料 ¥ 685,200 および所得税 ¥ 315,000 を控除した残額を現金で支払った。
2. 出張中の従業員から当座預金の口座に ¥99,000 の入金があった。このうち、¥70,000 については、得意先東京株式会社から注文を受けたさいに受領した手付金であることが判明しているが、残額 ¥29,000 の詳細は不明であった。
3. 仕入先札幌株式会社から商品 ¥ 550,000 を仕入れ、代金のうち ¥ 220,000 については約束手形を振り出し、残額は掛けとした。
4. 決算の結果、法人税が ¥15,000 と算定された。なお、この金額から中間納付額 ¥ 6,500 を控除した金額を未払分として計上した。
5. 小口現金係から、通信費 ¥40,000、消耗品費 ¥79,000 および雑費 ¥15,000 の小口現金の使用について報告を受けると同時に、同額の小切手を振り出して補給した。なお、当店は、小口現金について定額資金前渡制度を採用している。

第2問 (12点)

次の3月中の取引にもとづいて、当座預金勘定と当座借越勘定の空欄 (ア) ~ (オ) には適切な語句を、(a) ~ (e) には適切な金額を答案用紙に記入しなさい。なお、商品売買については三分法による。

- 3月7日 商品 ¥ 600,000 を仕入れ、代金のうち半額は小切手を振り出して支払い、残額を掛けとした。
- 11日 買掛金 ¥ 350,000 の支払のため、小切手を振り出した。
- 19日 商品 ¥ 220,000 を売り上げ、代金として先方振り出しの小切手を受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。
- 25日 売掛金 ¥ 370,000 の回収として、当座預金口座への入金があった。
- 30日 当店振り出しの約束手形 ¥ 460,000 について支払期日が到来し、当座預金口座からの引落しが行われた。
- 31日 決算につき、当座預金勘定の貸方残高を当座借越勘定へ振り替える。

当 座 預 金			
3/ 1	前 月 繰 越	500,000	3/ 7 (ア) (a)
19	(イ) (c)		11 () (b)
25	(ウ) (d)		30 (エ) ()
31	() (e)		
当 座 借 越			
			3/31 (オ) ()

第3問 (30点)

次の資料(A)および(B)にもとづいて、答案用紙の×5年5月31日の残高試算表を作成しなさい。

(A) ×5年4月30日の残高試算表(単位:円)

残 高 試 算 表		
×5年4月30日		
借 方	勘 定 科 目	貸 方
500,000	当 座 預 金	
120,000	受 取 手 形	
150,000	売 掛 金	
117,000	繰 越 商 品	
800,000	備 品	
	支 払 手 形	90,000
	買 掛 金	138,600
	借 入 金	250,000
	貸 倒 引 当 金	5,400
	備品減価償却累計額	144,000
	資 本 金	800,000
	繰越利益剰余金	200,000
	売 上	900,000
555,000	仕 入	
220,000	給 料	
66,000	支 払 家 賃	
2,528,000		2,528,000

(B) ×5年5月中の取引

1. 商品仕入高

- (1) 小切手振出による仕入高 ¥ 220,000
- (2) 約束手形の振出による仕入高 ¥ 180,000
- (3) 掛けによる仕入高 ¥ 190,000

2. 商品売上高

- (1) 当座預金への振込による売上高 ¥ 310,000
- (2) 約束手形の受領による売上高 ¥ 210,000
- (3) 掛けによる売上高 ¥ 440,000

3. 手形の決済

- (1) 期日の到来した手形債権 ¥77,000の決済 (当座預金として受取)
- (2) 期日の到来した手形債務 ¥54,000の決済 (小切手振出による支払)

4. 掛代金の貸倒れと決済

- (1) 前期発生売掛金の貸倒額 ¥ 1,700
- (2) 売掛金の決済額 ¥ 130,000 (当座預金として受取)
- (3) 買掛金の決済額 ¥ 110,000 (小切手振出による支払)

5. 備品の購入及び売却

- (1) 購入額 ¥ 150,000 (代金は翌月払い)
- (2) 売却額 ¥ 170,000 (当座預金として受取; 売却した備品の取得原価は¥ 180,000, 期首減価償却累計額は¥36,000, 売却時までの減価償却費は¥ 6,000である。)

6. 当座預金からのその他の支払額

- (1) 今月分の給料 ¥ 230,000の支払
- (2) 今月分の家賃 ¥66,000の支払
- (3) 借入金¥ 150,000の返済とそれにとまう利息¥ 3,000の支払

第4問 (8点)

決算において次の誤りを発見した。よって、これを訂正するための仕訳をしなさい。

1. かねて得意先横浜株式会社に商品 ¥ 130,000 を売り上げ、代金のうち ¥ 80,000 については約束手形を受け取り、残額については全額掛けとして処理していたが、決算において当該商品の注文時に ¥ 20,000 を内金として受け取っていたことが判明した。
2. 商品 ¥ 60,000 を掛けて売り渡した取引を、貸借逆に仕訳していたことが判明した。

第5問 (30点)

次に示した、(1) 決算日までに判明した未記帳事項等、(2) 期末整理事項等および(3) 決算整理前残高試算表にもとづいて、答案用紙の貸借対照表および損益計算書を完成しなさい。なお、会計期間は×5年4月1日から×6年3月31日までの1年間である。

(1) 決算日までに判明した未記帳事項等

1. 出張中の社員から当座預金口座へ振り込まれた ¥ 26,000 を仮受金として処理していたが、¥ 10,000 については得意先熊本株式会社に対する売掛金を回収したものであり、残額は得意先渋谷株式会社から受領した手付金であることが判明した。
2. 仮払金は、当期に備品を発注したさいに代金の一部を頭金として支払ったものである。なお、この備品 (購入代価: ¥ 162,000, 引取運賃 ¥ 18,000) は×6年2月1日の引渡しの直後から使用を始めているが、未記帳となっている。なお、代金の残額および引取運賃は×6年4月に支払うこととなっている。
3. 買掛金支払いのため、約束手形 ¥ 29,000 を振り出したが、この取引が記帳されていなかった。

(2) 期末整理事項等

1. 現金過不足のうち ¥ 500 は、受取手数料の記帳漏れによるものであることが判明した。しかし、残額については原因が不明であるので、適切に処理することにした。
2. 売掛金の期末残高に対して 1.8% の貸倒引当金を見積もる。貸倒引当金の設定は差額補充法による。
3. 期末商品の棚卸高は ¥ 30,000 である。
4. 前期以前より保有している建物および備品については定額法により減価償却を行う。

建	物	耐用年数30年	残存価額: 取得原価の10%
備	品	耐用年数4年	残存価額: 取得原価の10%

なお、新備品については、耐用年数6年、残存価額ゼロ、定額法で減価償却費の計算を行う。
5. 郵便切手が期末において ¥ 2,200 残っている。
6. 貸付金は、×5年12月1日に貸付期間1年、年利率 4.8% の条件で貸し付けたもので、利息は元金とともに返済時に受け取ることになっている。なお利息の計算は月割りによる。
7. 保険料は、全額建物に対する火災保険で、毎年同額を1月1日に向こう12ヶ月分として支払っている。
8. 受取家賃は、所有する建物の一部賃貸によるもので、毎回同額を6月1日と12月1日に向こう半年分として受け取っている。
9. 税金は無視すること。

(3) 決算整理前残高試算表 (単位: 円)

残 高 試 算 表		
× 6 年 3 月 31 日		
借 方	勘 定 科 目	貸 方
107,500	現 金	
	現 金 過 不 足	800
412,000	当 座 預 金	
300,000	売 掛 金	
51,000	繰 越 商 品	
50,000	仮 払 金	
200,000	貸 付 金	
500,000	建 物	
100,000	備 品	
477,000	土 地	
	支 払 手 形	103,000
	買 掛 金	92,000
	未 払 金	12,000
	前 受 金	13,000
	仮 受 金	26,000
	貸 倒 引 当 金	3,200
	建物減価償却累計額	150,000
	備品減価償却累計額	45,000
	資 本 金	1,200,000
	繰越利益剰余金	300,000
	売 上	1,000,000
	受 取 手 数 料	8,000
	受 取 家 賃	42,000
	受 取 利 息	5,000
600,000	仕 入	
114,000	給 料	
22,300	旅 費 交 通 費	
12,100	水 道 光 熱 費	
31,500	保 険 料	
18,700	通 信 費	
3,900	支 払 手 数 料	
3,000,000		3,000,000

財務会計論入門 I
 実力テスト
 解答用紙<1>

得点	会員番号								
	氏名								
	受講クラスNo.		講師名						

第1問 (20点)

(単位:円)

	仕 訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				

第2問 (12点)

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)

(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
¥	¥	¥	¥	¥

財務会計論入門 I
 実力テスト
 解答用紙<2>

会 員 番 号							
氏 名							
受 講 ク ラ ス No.					講 師 名		

第 3 問 (30点)

残 高 試 算 表

× 5 年 5 月 31 日

(単位 : 円)

借 方	勘 定 科 目	貸 方
	当 座 預 金	
	受 取 手 形	
	売 掛 金	
	繰 越 商 品	
	備 品	
	支 払 手 形	
	買 掛 金	
	()	
	借 入 金	
	貸 倒 引 当 金	
	備品減価償却累計額	
	資 本 金	
	繰 越 利 益 剰 余 金	
	売 上	
	()	
	仕 入	
	給 料	
	支 払 家 賃	
	減 価 償 却 費	
	支 払 利 息	

第 4 問 (8点)

(単位 : 円)

	仕 訳			
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1				
2				

財務会計論入門 I
 実力テスト
 解答用紙<3>

会 員 番 号											
氏 名											
受 講 ク ラ ス No.				講 師 名							

第 5 問 (30点)

貸 借 対 照 表

× 6 年 3 月 31 日

(単位：円)

現 金 ()	支 払 手 形 ()
当 座 預 金 ()	買 掛 金 ()
売 掛 金 ()	未 払 金 ()
貸 倒 引 当 金 (△) ()	前 受 金 ()
商 品 ()	前 受 収 益 ()
貯 蔵 品 ()	資 本 金 ()
前 払 費 用 ()	繰 越 利 益 剰 余 金 ()
未 収 収 益 ()	
貸 付 金 ()	
建 物 ()	
建物減価償却累計額 (△) ()	
備 品 ()	
備品減価償却累計額 (△) ()	
土 地 ()	
()	()

損 益 計 算 書

× 5 年 4 月 1 日 から × 6 年 3 月 31 日 まで

(単位：円)

売 上 原 価 ()	売 上 高 ()
給 料 ()	受 取 手 数 料 ()
旅 費 交 通 費 ()	受 取 家 賃 ()
水 道 光 熱 費 ()	受 取 利 息 ()
保 険 料 ()	雑 益 ()
通 信 費 ()	
支 払 手 数 料 ()	
貸 倒 引 当 金 繰 入 ()	
減 価 償 却 費 ()	
当 期 純 利 益 ()	
()	()

財務会計論入門 I

実力テスト 解答

(第10回目実施)

[解答時間: 120分]

第1問 (20点)

下記の取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	受取手形	売掛金
仮払法人税等	前払金	仮払金	立替金
支払手形	買掛金	未払金	租税公課
前受金	仮受金	社会保険料預り金	所得税預り金
仕入	給料	消耗品費	通信費
法人税, 住民税及び事業税	雑費	未払法人税等	貯蔵品

1. 当月分の従業員給料総額 ¥ 7,200,000 から社会保険料 ¥ 685,200 および所得税 ¥ 315,000 を控除した残額を現金で支払った。
2. 出張中の従業員から当座預金の口座に ¥99,000 の入金があった。このうち、¥70,000 については、得意先東京株式会社から注文を受けたさいに受領した手付金であることが判明しているが、残額 ¥29,000 の詳細は不明であった。
3. 仕入先札幌株式会社から商品 ¥ 550,000 を仕入れ、代金のうち ¥ 220,000 については約束手形を振り出し、残額は掛けとした。
4. 決算の結果、法人税が ¥15,000 と算定された。なお、この金額から中間納付額 ¥ 6,500 を控除した金額を未払分として計上した。
5. 小口現金係から、通信費 ¥40,000、消耗品費 ¥79,000 および雑費 ¥15,000 の小口現金の使用について報告を受けると同時に、同額の小切手を振り出して補給した。なお、当店は、小口現金について定額資金前渡制度を採用している。

第2問 (12点)

次の3月中の取引にもとづいて、当座預金勘定と当座借越勘定の空欄 (ア) ~ (オ) には適切な語句を、(a) ~ (e) には適切な金額を答案用紙に記入しなさい。なお、商品売買については三分法による。

- 3月7日 商品 ¥ 600,000 を仕入れ、代金のうち半額は小切手を振り出して支払い、残額を掛けとした。
- 11日 買掛金 ¥ 350,000 の支払のため、小切手を振り出した。
- 19日 商品 ¥ 220,000 を売り上げ、代金として先方振り出しの小切手を受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。
- 25日 売掛金 ¥ 370,000 の回収として、当座預金口座への入金があった。
- 30日 当店振り出しの約束手形 ¥ 460,000 について支払期日が到来し、当座預金口座からの引落しが行われた。
- 31日 決算につき、当座預金勘定の貸方残高を当座借越勘定へ振り替える。

当 座 預 金			
3/ 1	前 月 繰 越	500,000	3/ 7 (ア) (a)
19	(イ) (c)		11 () (b)
25	(ウ) (d)		30 (エ) ()
31	() (e)		
当 座 借 越			
			3/31 (オ) ()

第3問 (30点)

次の資料(A)および(B)にもとづいて、答案用紙の×5年5月31日の残高試算表を作成しなさい。

(A) ×5年4月30日の残高試算表(単位:円)

残 高 試 算 表		
×5年4月30日		
借 方	勘 定 科 目	貸 方
500,000	当 座 預 金	
120,000	受 取 手 形	
150,000	売 掛 金	
117,000	繰 越 商 品	
800,000	備 品	
	支 払 手 形	90,000
	買 掛 金	138,600
	借 入 金	250,000
	貸 倒 引 当 金	5,400
	備品減価償却累計額	144,000
	資 本 金	800,000
	繰越利益剰余金	200,000
	売 上	900,000
555,000	仕 入	
220,000	給 料	
66,000	支 払 家 賃	
2,528,000		2,528,000

(B) ×5年5月中の取引

1. 商品仕入高

- (1) 小切手振出による仕入高 ¥ 220,000
- (2) 約束手形の振出による仕入高 ¥ 180,000
- (3) 掛けによる仕入高 ¥ 190,000

2. 商品売上高

- (1) 当座預金への振込による売上高 ¥ 310,000
- (2) 約束手形の受領による売上高 ¥ 210,000
- (3) 掛けによる売上高 ¥ 440,000

3. 手形の決済

- (1) 期日の到来した手形債権 ¥77,000の決済(当座預金として受取)
- (2) 期日の到来した手形債務 ¥54,000の決済(小切手振出による支払)

4. 掛代金の貸倒れと決済

- (1) 前期発生売掛金の貸倒額 ¥ 1,700
- (2) 売掛金の決済額 ¥ 130,000(当座預金として受取)
- (3) 買掛金の決済額 ¥ 110,000(小切手振出による支払)

5. 備品の購入及び売却

- (1) 購入額 ¥ 150,000(代金は翌月払い)
- (2) 売却額 ¥ 170,000(当座預金として受取;売却した備品の取得原価は¥ 180,000,期首減価償却累計額は¥36,000,売却時までの減価償却費は¥ 6,000である。)

6. 当座預金からのその他の支払額

- (1) 今月分の給料 ¥ 230,000の支払
- (2) 今月分の家賃 ¥66,000の支払
- (3) 借入金¥ 150,000の返済とそれにとまう利息¥ 3,000の支払

第4問 (8点)

決算において次の誤りを発見した。よって、これを訂正するための仕訳をしなさい。

1. かねて得意先横浜株式会社に商品 ¥ 130,000 を売り上げ、代金のうち ¥ 80,000 については約束手形を受け取り、残額については全額掛けとして処理していたが、決算において当該商品の注文時に ¥ 20,000 を内金として受け取っていたことが判明した。
2. 商品 ¥ 60,000 を掛けて売り渡した取引を、貸借逆に仕訳していたことが判明した。

第5問 (30点)

次に示した、(1) 決算日までに判明した未記帳事項等、(2) 期末整理事項等および(3) 決算整理前残高試算表にもとづいて、答案用紙の貸借対照表および損益計算書を完成しなさい。なお、会計期間は×5年4月1日から×6年3月31日までの1年間である。

(1) 決算日までに判明した未記帳事項等

1. 出張中の社員から当座預金口座へ振り込まれた ¥ 26,000 を仮受金として処理していたが、¥ 10,000 については得意先熊本株式会社に対する売掛金を回収したものであり、残額は得意先渋谷株式会社から受領した手付金であることが判明した。
2. 仮払金は、当期に備品を発注したさいに代金の一部を頭金として支払ったものである。なお、この備品 (購入代価: ¥ 162,000, 引取運賃 ¥ 18,000) は×6年2月1日の引渡しの直後から使用を始めているが、未記帳となっている。なお、代金の残額および引取運賃は×6年4月に支払うこととなっている。
3. 買掛金支払いのため、約束手形 ¥ 29,000 を振り出したが、この取引が記帳されていなかった。

(2) 期末整理事項等

1. 現金過不足のうち ¥ 500 は、受取手数料の記帳漏れによるものであることが判明した。しかし、残額については原因が不明であるので、適切に処理することにした。
2. 売掛金の期末残高に対して 1.8% の貸倒引当金を見積もる。貸倒引当金の設定は差額補充法による。
3. 期末商品の棚卸高は ¥ 30,000 である。
4. 前期以前より保有している建物および備品については定額法により減価償却を行う。

建	物	耐用年数30年	残存価額: 取得原価の10%
備	品	耐用年数4年	残存価額: 取得原価の10%

なお、新備品については、耐用年数6年、残存価額ゼロ、定額法で減価償却費の計算を行う。
5. 郵便切手が期末において ¥ 2,200 残っている。
6. 貸付金は、×5年12月1日に貸付期間1年、年利率 4.8% の条件で貸し付けたもので、利息は元金とともに返済時に受け取ることになっている。なお利息の計算は月割りによる。
7. 保険料は、全額建物に対する火災保険で、毎年同額を1月1日に向こう12ヶ月分として支払っている。
8. 受取家賃は、所有する建物の一部賃貸によるもので、毎回同額を6月1日と12月1日に向こう半年分として受け取っている。
9. 税金は無視すること。

(3) 決算整理前残高試算表 (単位: 円)

残 高 試 算 表		
× 6 年 3 月 31 日		
借 方	勘 定 科 目	貸 方
107,500	現 金	
	現 金 過 不 足	800
412,000	当 座 預 金	
300,000	売 掛 金	
51,000	繰 越 商 品	
50,000	仮 払 金	
200,000	貸 付 金	
500,000	建 物	
100,000	備 品	
477,000	土 地	
	支 払 手 形	103,000
	買 掛 金	92,000
	未 払 金	12,000
	前 受 金	13,000
	仮 受 金	26,000
	貸 倒 引 当 金	3,200
	建物減価償却累計額	150,000
	備品減価償却累計額	45,000
	資 本 金	1,200,000
	繰越利益剰余金	300,000
	売 上	1,000,000
	受 取 手 数 料	8,000
	受 取 家 賃	42,000
	受 取 利 息	5,000
600,000	仕 入	
114,000	給 料	
22,300	旅 費 交 通 費	
12,100	水 道 光 熱 費	
31,500	保 険 料	
18,700	通 信 費	
3,900	支 払 手 数 料	
3,000,000		3,000,000

【解答】

第1問 (20点) 4点×5箇所=20点

(単位:円)

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	給料	7,200,000	社会保険料預り金 所得税預り金 現金	685,200 315,000 6,199,800
2	当座預金	99,000	前受金 仮受金	70,000 29,000
3	仕入	550,000	支払手形 買掛金	220,000 330,000
4	法人税, 住民税及び事業税	15,000	仮払法人税等 未払法人税等	6,500 8,500
5	通信費 消耗品費 雑費	40,000 79,000 15,000	当座預金	134,000

第2問 (12点) 2点×6箇所=12点

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
仕入	売上	売掛金	支払手形	当座預金

(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
¥ 300,000	¥ 350,000	¥ 220,000	¥ 370,000	¥ 20,000

第3問 (30点) ★ 3点×10箇所=30点

残高試算表		
× 5年5月31日		
(単位: 円)		
借方	勘定科目	貸方
★ 354,000	当座預金	
★ 253,000	受取手形	
★ 458,300	売掛金	
117,000	繰越商品	
770,000	備品	
	支払手形	216,000
	買掛金	218,600
	(未払金)	★ 150,000
	借入金	100,000
	貸倒引当金	★ 3,700
	備品減価償却累計額	★ 108,000
	資本金	800,000
	繰越利益剰余金	200,000
	売上	★ 1,860,000
	(備品売却益)	★ 32,000
1,145,000	仕入	
450,000	給料	
★ 132,000	支払家賃	
6,000	減価償却費	
★ 3,000	支払利息	
3,688,300		3,688,300

(注) 「備品売却益」は「固定資産売却益」としても正解とする。

第4問 (8点) 4点×2箇所=8点

(単位: 円)

	仕訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	前受金	20,000	売掛金	20,000
2	売掛金	120,000	売上	120,000

第 5 問 (30点) ★ 3 点×10箇所=30点

貸 借 対 照 表

× 6 年 3 月 31 日

(単位 : 円)

現 金	(107,500)	支 払 手 形	(132,000)
当 座 預 金	(412,000)	買 掛 金	(63,000)
売 掛 金 (290,000)		未 払 金	(★ 142,000)
貸 倒 引 当 金 (△ 5,220)	(284,780)	前 受 金	(★ 29,000)
商 品	(30,000)	前 受 収 益	(6,000)
貯 蔵 品	(★ 2,200)	資 本 金	(1,200,000)
前 払 費 用	(★ 13,500)	繰 越 利 益 剰 余 金	(500,680)
未 収 収 益	(★ 3,200)		
貸 付 金	(200,000)		
建 物 (500,000)			
建物減価償却累計額 (△ 165,000)	(335,000)		
備 品 (280,000)			
備品減価償却累計額 (△ 72,500)	(207,500)		
土 地	(477,000)		
	(2,072,680)		(2,072,680)

損 益 計 算 書

× 5 年 4 月 1 日 から × 6 年 3 月 31 日 まで

(単位 : 円)

売 上 原 価	(★ 621,000)	売 上 高	(1,000,000)
給 料	(114,000)	受 取 手 数 料	(8,500)
旅 費 交 通 費	(22,300)	受 取 家 賃	(★ 36,000)
水 道 光 熱 費	(12,100)	受 取 利 息	(8,200)
保 険 料	(18,000)	雑 益	(★ 300)
通 信 費	(16,500)		
支 払 手 数 料	(3,900)		
貸 倒 引 当 金 繰 入	(★ 2,020)		
減 価 償 却 費	(★ 42,500)		
当 期 純 利 益	(200,680)		
	(1,053,000)		(1,053,000)

【出題意図】

今回は初めての實力テストですが、いかがだったでしょうか。本問は日商簿記3級試験と同様の出題形式となっておりますので、70点以上を獲得できれば日商簿記3級を合格する力が備わっているといえます。もちろん、会計士受験を考えた場合には、本問の出題に関しては必ず理解すべき内容ですので、間違えた箇所は繰り返し復習をして下さい。なお、第5問で出題しました決算整理前残高試算表をスタートとして、決算整理仕訳を経て、損益計算書及び貸借対照表を作成する簿記一巡の手続は、今後学習を進めていく上でも非常に重要です。

次回からカリキュラムは入門Ⅱへと進みます。入門Ⅰに比べると難易度が上がりますが、心機一転頑張ってください。

【解答時間及び得点】

	日付	解答時間	得点	M E M O
1回目	/	分	点	
2回目	/	分	点	
3回目	/	分	点	
4回目	/	分	点	

【チェック・ポイント】

出題分野	出題論点	間違えた論点に×を付すこと				M E M O
		1回目	2回目	3回目	4回目	
《第1問》 商品売買(I)	三分法による商品売買取引の記帳					
	掛けによる売買					
	手付金や内金の処理					
手形取引	約束手形					
小口現金	小口現金取引の処理					
その他の取引(III)	仮受金					
	給与					
税金	法人税等					
《第2問》 現金・預金	当座預金					
決算整理(II)	当座借越					
《第3問》 日常の手続き	試算表の作成					
その他の取引(II)	有形固定資産					
	未払金					
決算整理(IV)	貸倒れ					
決算整理(V)	有形固定資産の売却					
《第4問》 訂正仕訳	訂正仕訳					
《第5問》 その他の取引(III)	仮払金					
決算整理(I)	現金過不足の整理					
決算整理(II)	貯蔵品					
決算整理(III)	売上原価					
決算整理(IV)	貸倒れの見積り					
決算整理(V)	有形固定資産の減価償却					
決算整理(VI)	費用の前払い					
	収益の前受け					
	収益の未収					
損益計算書と貸借対照表	財務諸表の作成					

【解答への道】 (単位: 円)

I. 第1問について

1. 給料の支払・預り金

(借) 給	料	7,200,000	(貸) 社会保険料預り金(注)	685,200
			所得税預り金(注)	315,000
			現金	6,199,800(*1)

(注) 「預り金」勘定を用いる場合もあるが、本問では問題文に与えられた勘定科目に「預り金」勘定がなく、「社会保険料預り金」及び「所得税預り金」勘定があるため、当該科目を用いて解答しなければならない点に注意すること。

(*1) 従業員給料総額7,200,000 - 社会保険料685,200 - 所得税315,000 = 6,199,800

2. 前受金・仮受金

(借) 当座預金	99,000	(貸) 前受金	70,000
		仮受金	29,000

3. 手形の振出・掛仕入

(借) 仕入	550,000	(貸) 支払手形	220,000(*1)
		買掛金	330,000(*2)

(*1) 手形振出高

(*2) 仕入550,000 - 220,000(*1) = 330,000

4. 法人税等の計上

(借) 法人税, 住民税及び事業税	15,000	(貸) 仮払法人税等	6,500(*1)
		未払法人税等	8,500(*2)

(*1) 中間納付額

(*2) 15,000 - 6,500(*1) = 8,500

5. 小口現金

(借) 通信費	40,000	(貸) 当座預金	134,000
消耗品費	79,000		
雑費	15,000		

(注) 支払報告を受けたと同時に小切手を振り出して補給した場合、報告時の仕訳と補給時の仕訳をまとめて仕訳を行う。

II. 第2問について

1. 3月7日

(借) 仕	入	600,000	(貸) 当	座	預	金	300,000(*1)
			買	掛	金		300,000(*1)

(*1) 600,000 ÷ 2 = 300,000

2. 3月11日

(借) 買	掛	金	350,000	(貸) 当	座	預	金	350,000
-------	---	---	---------	-------	---	---	---	---------

3. 3月19日

(借) 当	座	預	金	220,000	(貸) 売	上	220,000
-------	---	---	---	---------	-------	---	---------

4. 3月25日

(借) 当	座	預	金	370,000	(貸) 売	掛	金	370,000
-------	---	---	---	---------	-------	---	---	---------

5. 3月30日

(借) 支	払	手	形	460,000	(貸) 当	座	預	金	460,000
-------	---	---	---	---------	-------	---	---	---	---------

6. 3月31日 (決算整理)

(借) 当	座	預	金	20,000	(貸) 当	座	借	越	20,000(*2)
-------	---	---	---	--------	-------	---	---	---	------------

(*2) 500,000 - 300,000(*1) - 350,000 + 220,000 + 370,000 - 460,000 = 20,000

7. 勘定記入

当 座 預 金			
3/ 1	前 月 繰 越	500,000	3/ 7 仕 入 300,000
19	売 上	220,000	11 買 掛 金 350,000
25	売 掛 金	370,000	30 支 払 手 形 460,000
31	当 座 借 越	20,000	

当 座 借 越	
3/31	当 座 預 金 20,000

III. 第3問について

1. 商品仕入高

(借) 仕	入	590,000	(貸) 当	座	預	金	220,000
			支	払	手	形	180,000
			買	掛	金		190,000

2. 商品売上高

(借) 当	座	預	金	310,000	(貸) 売	上	960,000
受	取	手	形	210,000			
売	掛	金	440,000				

3. 手形の決済

(借) 当座預金	77,000	(貸) 受取手形	77,000
(借) 支払手形	54,000	(貸) 当座預金	54,000

4. 掛代金の貸倒れと決済

(借) 貸倒引当金	1,700	(貸) 売掛金	1,700
(借) 当座預金	130,000	(貸) 売掛金	130,000
(借) 買掛金	110,000	(貸) 当座預金	110,000

5. 備品の購入及び売却

(借) 備品	150,000	(貸) 未払金	150,000
(借) 備品減価償却累計額	36,000(*1)	(貸) 備品	180,000
減価償却費	6,000(*2)	備品売却益	32,000(*3)
当座預金	170,000		

(*1) 期首減価償却累計額

(*2) 売却時までの減価償却費

(*3) 売価170,000－売却時の帳簿価額(取得原価180,000－36,000(*1)－6,000(*2))=32,000

6. 当座預金からのその他の支払額

(借) 給料	230,000	(貸) 当座預金	230,000
(借) 支払家賃	66,000	(貸) 当座預金	66,000
(借) 借入金	150,000	(貸) 当座預金	153,000
支払利息	3,000		

IV. 第4問について

1. 内金の修正

(1) 期中取引仕訳

(借) 受取手形	80,000	(貸) 売上	130,000
売掛金	50,000(*1)		

(*1) 130,000－手形受取80,000=50,000

(2) あるべき仕訳

(借) 前受金	20,000	(貸) 売上	130,000
受取手形	80,000		
売掛金	30,000(*2)		

(*2) 130,000－内金受取20,000－手形受取80,000=30,000

(3) 訂正仕訳 ((2)－(1))

(借) 前受金	20,000	(貸) 売掛金	20,000
---------	--------	---------	--------

2. 金額の修正

(1) 期中取引仕訳

(借) 売	上	60,000	(貸) 売	掛	金	60,000
-------	---	--------	-------	---	---	--------

(2) あるべき仕訳

(借) 売	掛	金	60,000	(貸) 売	上	60,000
-------	---	---	--------	-------	---	--------

(3) 訂正仕訳 ((2)-(1))

(借) 売	掛	金	120,000	(貸) 売	上	120,000
-------	---	---	---------	-------	---	---------

V. 第5問について

1. 未記帳事項等

(1) 仮受金の処理

(借) 仮	受	金	26,000	(貸) 売	掛	金	10,000
					前	受	金
							16,000(*1)

(*1) 仮受金26,000 - 売掛金の回収額10,000 = 16,000

(2) 仮払金の処理

(借) 備	品	180,000(*2)	(貸) 仮	払	金	50,000(*1)
				未	払	金
						130,000(*3)

(*1) 前T/B より

(*2) 購入代価162,000 + 引取運賃18,000 = 180,000

(*3) 備品取得原価180,000(*2) - 仮払金50,000 = 130,000

(3) 手形の振出 (未処理)

(借) 買	掛	金	29,000	(貸) 支	払	手	形
							29,000

2. 期末整理事項等

(1) 現金過不足の整理

(借) 現	金	過	不	足	800(*1)	(貸) 受	取	手	数	料	500
							雑			益	300(*2)

(*1) 前T/B より

(*2) 800(*1) - 原因判明分500 = 300

(2) 貸倒引当金の設定

(借) 貸	倒	引	当	金	繰	入	2,020(*1)	(貸) 貸	倒	引	当	金	2,020
-------	---	---	---	---	---	---	-----------	-------	---	---	---	---	-------

(*1) 売掛金290,000(*2) × 1.8% - 前T/B 貸倒引当金3,200 = 2,020

(*2) 前T/B 売掛金300,000 - 未記帳事項等10,000 = 290,000

(3) 売上原価の算定

(借) 仕	入	51,000	(貸) 繰	越	商	品	51,000(*1)
(借) 繰	越	商	品	30,000(*2)	(貸) 仕	入	30,000

(*1) 期首商品棚卸高 (前T/B より)

(*2) 期末商品棚卸高

(4) 減価償却

(借) 減価償却費	15,000(*1)	(貸) 建物減価償却累計額	15,000
(借) 減価償却費	27,500(*2)	(貸) 備品減価償却累計額	27,500

(*1) 前T/B 建物500,000×0.9÷30年=15,000

(*2) 22,500(*3)+5,000(*4)=27,500

(*3) 前T/B 備品100,000×0.9÷4年=22,500

(*4) 新備品180,000÷6年× $\frac{2ヶ月(\times 6.2\sim \times 6.3)}{12ヶ月}$ =5,000

(5) 貯蔵品

(借) 貯蔵品	2,200	(貸) 通信費	2,200
---------	-------	---------	-------

(注) 郵便切手は期中において通信費勘定で処理されている。

(6) 未収利息の計上

(借) 未収利息	3,200(*1)	(貸) 受取利息	3,200
----------	-----------	----------	-------

(*1) 前T/B 貸付金200,000×4.8%× $\frac{4ヶ月(\times 5.12\sim \times 6.3)}{12ヶ月}$ =3,200

(7) 前払保険料の計上

(借) 前払保険料	13,500(*1)	(貸) 保険料	13,500
-----------	------------	---------	--------

(*1) 前T/B 保険料31,500× $\frac{9ヶ月(\times 6.4\sim \times 6.12)}{21ヶ月(\times 5.4\sim \times 6.12)}$ =13,500

(注) なお、期中の仕訳を示すと以下のとおりである。

① 再振替仕訳 (×5年4月1日)

(借) 保険料	13,500	(貸) 前払保険料	13,500(*2)
---------	--------	-----------	------------

(*2) 前T/B 保険料31,500× $\frac{9ヶ月(\times 5.4\sim \times 5.12)}{21ヶ月(\times 5.4\sim \times 6.12)}$ =13,500

② 保険料支払時 (×6年1月1日, 当座による支払を前提)

(借) 保険料	18,000	(貸) 当座預金	18,000(*3)
---------	--------	----------	------------

(*3) 前T/B 保険料31,500× $\frac{12ヶ月(\times 6.1\sim \times 6.12)}{21ヶ月(\times 5.4\sim \times 6.12)}$ =18,000

(8) 前受家賃の計上

(借) 受取家賃	6,000	(貸) 前受家賃	6,000(*1)
----------	-------	----------	-----------

(*1) 前T/B 受取家賃42,000× $\frac{2ヶ月(\times 6.4\sim \times 6.5)}{14ヶ月(\times 5.4\sim \times 6.5)}$ =6,000

(注) なお、期中の仕訳を示すと以下のとおりである。

① 再振替仕訳 (×5年4月1日)

(借) 前受家賃	6,000(*2)	(貸) 受取家賃	6,000
----------	-----------	----------	-------

(*2) 前T/B 受取家賃42,000× $\frac{2ヶ月(\times 5.4\sim \times 5.5)}{14ヶ月(\times 5.4\sim \times 6.5)}$ =6,000

② 家賃受取時 (×5年6月1日, 当座による受取を前提)

(借) 当座預金	18,000(*3)	(貸) 受取家賃	18,000
----------	------------	----------	--------

(*3) 前T/B 受取家賃42,000× $\frac{6ヶ月(\times 5.6\sim \times 5.11)}{14ヶ月(\times 5.4\sim \times 6.5)}$ =18,000

③ 家賃受取時 (×5年12月1日, 当座による受取を前提)

(借) 当座預金	18,000(*4)	(貸) 受取家賃	18,000
----------	------------	----------	--------

(*4) 前T/B 受取家賃42,000× $\frac{6ヶ月(\times 5.12\sim \times 6.5)}{14ヶ月(\times 5.4\sim \times 6.5)}$ =18,000